

2019(令和元年)
6月1日発行

環境情報

川崎市 環境情報

検索

No.562

特集 データで紐解く、川崎の「大気環境」平成史
6月は環境月間です！

データで紐解く、川崎の「大気環境」平成史

川崎の色のイメージ

世間みなさんが川崎に対して持っている色のイメージをご存じでしょうか？フロンターレの水色？南武線の黄色？どちらでもなく、正解は「灰色」です*1。

高度経済成長の時代、都市部では深刻な公害を経験しました。川崎でも当時は工場から出る煙の影響で、灰色の空が広がっていました。社会科の授業で習った方も多いのではないのでしょうか。そういった過去のイメージが「川崎＝灰色」につながっているようです。しかし、市民・事業者・行政の協働による様々な取組を行った結果、現在では大気環境は大幅に改善しています。

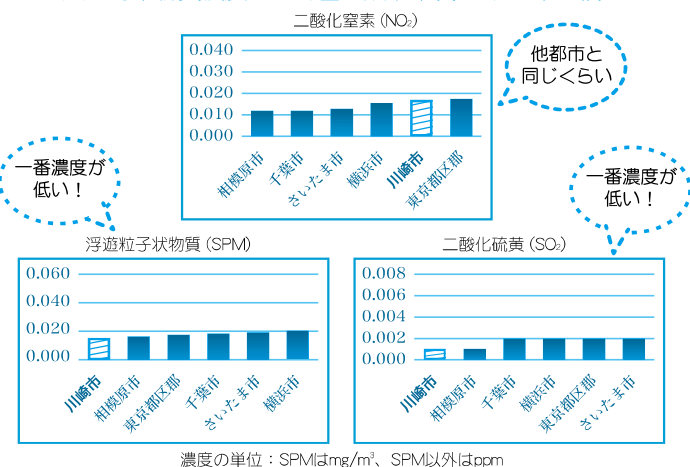
今回の特集では、川崎の大気環境がどのように変わったのか、データを元に振り返ります。

大気データの現状

大気中には、健康被害等の原因になる大気汚染物質という物質が存在し、自然に発生することもあります。主には人為的に発生します。代表的なものとして、二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、二酸化硫黄(SO₂)があり、これらの大気中の濃度は低いほうが望ましいです。

平成28年度の首都圏の政令市及び都区部で、これらの濃度を比較したものが下図になります。SPMとSO₂については川崎市が一番濃度が低く、NO₂も他都市と大きな差がないのがわかります。

大気汚染物質濃度 首都圏の政令市及び都区部比較**

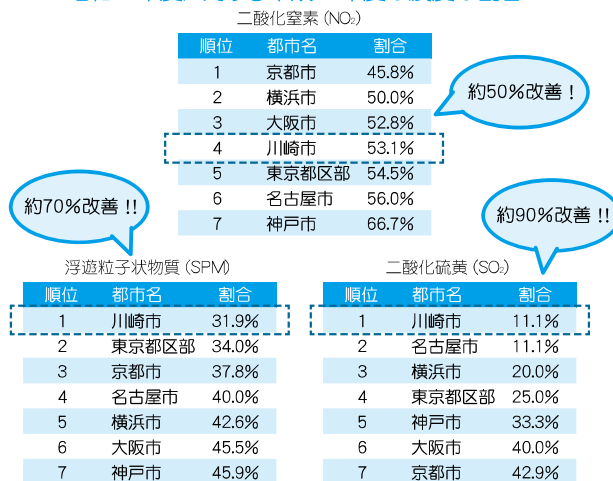


平成の時代の大気環境の改善

次に平成の時代にどれくらい大気汚染物質の濃度が改善したのかを見ていきます。下表は昭和63年度と平成28年度の濃度を比較したのになります(S63年度を100としたときのH28年度の割合)。

SPMとSO₂については川崎市が一番減少しています。大気中のSPMはおよそ3割に、SO₂についてはおよそ1割になりました。その他の物質についても大幅な改善が見られました*2。

昭和63年度に対する平成28年度の濃度の割合**



多彩な「色」が輝く街

かつては灰色の空で覆われていた川崎市は地道な取り組みを続けてきた結果、青い空ときれいな環境を取り戻しました。安心して暮らせる生活環境を守り続けていくこと、それが今を生きる私たちに必要なことなのです。

川崎市のロゴマークは、光の三原色をイメージしたどんな「色」にもなれる多様性や自由をあらわしています。

市民一人ひとりの思いが多彩な「色」となり、川崎の新しい未来への可能性を広げていくという願いが込められています。

*1 平成25年度川崎市「都市イメージ調査」報告書より

*2 昭和63年当時、政令市ではない都市のデータは大都市比較年表に記載がないため、旧5大都市及び特区部と比較

*3 一般環境大気測定局のデータを示しています



川崎市の環境イベントを
ホームページで紹介しています！

問い合わせ：環境局環境調整課
TEL:200-2386 FAX:200-3921



Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市